

工業会活動

2020年度(令和2年度) 航空機生産・輸出・受注額(改訂)見通し

(一社)日本機械工業連合会が実施する「2020年度(令和2年度)機械工業生産額見通し調査」に関する調査依頼を受け、当工業会は会員企業26社の協力を得て本年9月末時点における「航空機生産・輸出・受注額見通し」の調査を実施した。

前回の調査(本年4月末)における2020年度の見通しは1.5兆円台、輸出額は約1兆円、受注額は約1.5兆円台であったが、改訂調査ではそれぞれ、1.2兆円台(前回比20.8%減)、0.6兆円台(同34.2%減)、1.1兆円台(同24.9%減)となり、品目別では機体部品とエンジン部品が大きく減少した。前回の調査では、ボーイング社の減産計画等、新型コロナウイルスの影響による航空機需要減に伴う生産減の見通しが十分に反映できていなかったが、改訂調査ではこれらの見通しを反映した結果、大幅な減少見通しとなった。年度別の生産額と受注額の趨勢は以下のとおりである。

2015年度に1.8兆円に達した生産額は、2016年度に反転下落後2017年度以降は緩やかに回復し2019年度は再び1.8兆円台となったが、2020年度は1.2兆円台まで下落する見通しであることが、今回の調査で確認された。その主な要因として、2019年度は、Boeing787の生産増等を背景とした民間機向け「機体部品」「エンジン部品」及び「装備品」が増加したのに対して、2020年度は新型コロナウイルスの影響による航空機需要減が見込まれることによる「機体部品」「エンジン部品」及び「装備品」の減が挙げられる。

また、2013年度以降、急速に拡大した受注額は、2015年度の1.9兆円弱をピークに以降下落し続け、2018年度は1.6兆円、2019年度は1.5兆円台、2020年度は1.1兆円台まで下落する見通しであることが、今回の調査で確認された。2018年度と比較した主な要因は、2019年度は民間機向け「機体部品」「エンジン本体」及び「装備品」の減、2020年度は生産見通しと同様の理由により、航空機需要減による民間機向け「機体部品」及び「エンジン部品」の減が挙げられる。

今後については、防衛向けではP-1固定翼哨戒機やC-2輸送機等の調達に伴う安定的な生産及び次期戦闘機の開発推進が期待される。民間向けではボーイング社の次期主力機777X初号機納入が2022年に延期されたことに加え、ボーイング社は、新型コロナウイルスの影響による航空機需要減が見込まれるとして、ボーイング777及び777Xの減産を公表し、また、ボーイング787についても同様の理由で減産を公表している。こうした状況を踏まえると、2020年度以降の航空機生産の動向はかなり厳しい状況が想定される。

調査結果の概要について、以下に記す。

1. 生産額

(1) 全般

- ◇「2019年度実績額」は1兆8,356億円で前年比1,027億円（5.9%）の増となった。
- ◇「2020年度見通し額」は1兆2,502億円で前年比5,854億円（31.9%）減の見通し。

(2) 内訳

①機体関連

- ◇2019年度は、「機体本体」は防衛向けUS-2救難飛行艇の増等により73億円増の2,401億円、「機体用部品」がBoeing向け787用部品の増等により304億円増の

7,028億円で、「機体合計」では、376億円増の9,429億円となった。

- ◇2020年度は、「機体本体」は2019年度とほぼ同じレベルの2,394億円、「機体用部品」はBoeing向け787用部品の減等により2,197億円減の4,831億円、「機体合計」では2,204億円減の7,225億円の見通しである。

②エンジン関連

- ◇2019年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジンの減等により495億円減の631億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増等により1,001億円増の6,423億円で、「エンジン合計」では、505億円増の



生産額の長期推移

(単位：億円)

区分	年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020見通	2020見通(改訂)
機体本体		2,320	2,522	2,585	2,586	2,328	2,401	2,340	2,394
機体部品		7,911	8,488	7,120	6,952	6,724	7,028	6,125	4,831
(小計)		(10,232)	(11,010)	(9,705)	(9,538)	(9,053)	(9,429)	(8,464)	(7,225)
エンジン本体		827	1,089	953	1,038	1,126	631	813	730
エンジン部品		3,805	4,449	4,562	4,730	5,422	6,423	5,086	3,179
(小計)		(4,632)	(5,538)	(5,515)	(5,768)	(6,548)	(7,053)	(5,899)	(3,910)
装備品		1,593	1,838	1,746	1,886	1,729	1,874	1,413	1,367
計		16,457	18,387	16,965	17,192	17,329	18,356	15,776	12,502

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

7,053億円となった。

◇2020年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジン修理の増等により99億円増の730億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の減等により3,244億円減の3,179億円で、「エンジン合計」では3,143億円減の3,910億円の見通しである。

③ 装備品

◇2019年度は、民間機向け内装品の増等により、145億円増の1,874億円となった。

◇2020年度は、民間機向け内装品の減等により、507億円減の1,367億円の見通しである。

2. 輸出額

(1) 全般

◇「2019年度実績額」は1兆2,183億円で前年比814億円（7.2%）の増となった。

◇「2020年度見通し額」は6,636億円で前年比5,547億円（45.5%）減の見通し。

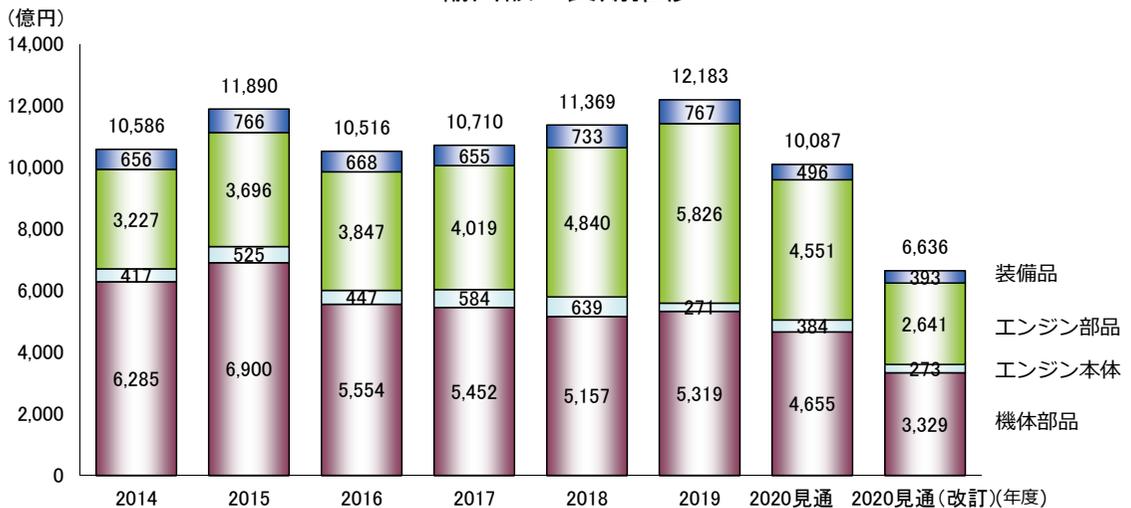
(2) 内訳

① 機体関連（機体部品のみ）

◇2019年度は、Boeing向け787用部品の増等により162億円増の5,319億円となった。

◇2020年度は、Boeing向け787用部品の減等により1,990億円減の3,329億円の見通

輸出額の長期推移



輸出額の長期推移

(単位：億円)

区分 \ 年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020見通	2020見通(改訂)
機体本体	0	2	0	0	1	0	0	0
機体部品	6,285	6,900	5,554	5,452	5,157	5,319	4,655	3,329
(小計)	(6,285)	(6,902)	(5,554)	(5,452)	(5,158)	(5,319)	(4,656)	(3,329)
エンジン本体	417	525	447	584	639	271	384	273
エンジン部品	3,227	3,696	3,847	4,019	4,840	5,826	4,551	2,641
(小計)	(3,645)	(4,221)	(4,294)	(4,603)	(5,479)	(6,096)	(4,935)	(2,914)
装備品	656	766	668	655	733	767	496	393
計	10,586	11,890	10,516	10,710	11,369	12,183	10,087	6,636

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

しである。

②エンジン関連

◇2019年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の減等により368億円減の271億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増等により986億円増の5,826億円で、「エンジン合計」では、617億円増の6,096億円となった。

◇2020年度は、「エンジン本体」は2019年度とほぼ同じレベルの273億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の減等により3,185億円減の2,641億円で、「エンジン合計」では、3,182億円減の2,914億円の見

通しである。

③装備品

◇2019年度は、民間機向け内装品の増等により34億円増の767億円となった。

◇2020年度は、民間機向け内装品の減等により374億円減の393億円となった。

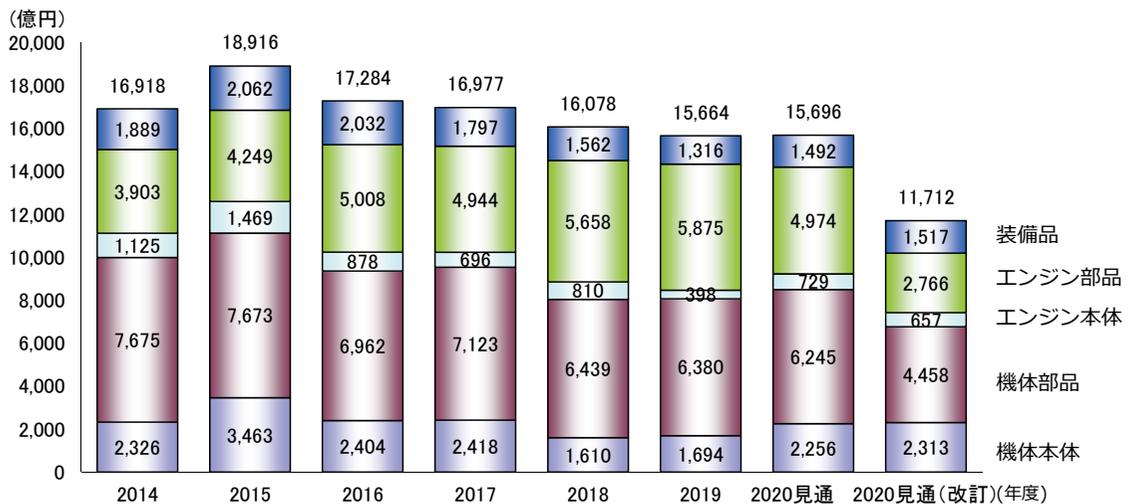
3. 受注額

(1) 全般

◇「2019年度実績額」は1兆5,664億円で前年比414億円（2.6%）の減となった。

◇「2020年度見通し額」は1兆1,712億円で前年比3,952億円（25.2%）減の見通し。

受注額の長期推移



受注額の長期推移

(単位：億円)

区分 \ 年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020見通	2020見通(改訂)
機体本体	2,326	3,463	2,404	2,418	1,610	1,694	2,256	2,313
機体部品	7,675	7,673	6,962	7,123	6,439	6,380	6,245	4,458
(小計)	(10,001)	(11,136)	(9,366)	(9,541)	(8,049)	(8,074)	(8,501)	(6,771)
エンジン本体	1,125	1,469	878	696	810	398	729	657
エンジン部品	3,903	4,249	5,008	4,944	5,658	5,875	4,974	2,766
(小計)	(5,028)	(5,718)	(5,886)	(5,639)	(6,468)	(6,274)	(5,703)	(3,424)
装備品	1,889	2,062	2,032	1,797	1,562	1,316	1,492	1,517
計	16,918	18,916	17,284	16,977	16,078	15,664	15,696	11,712

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連

◇2019年度は、「機体本体」は防衛向け新多用途ヘリコプターの増等により84億円増の1,694億円、「機体用部品」がBoeing向け777用部品の減等により59億円減の6,380億円で、「機体合計」では、25億円増の8,074億円となった。

◇2020年度は、「機体本体」はP-1固定翼哨戒機の増等により619億円増の2,313億円、「機体用部品」が民間機向け部品の減等により1,922億円減の4,458億円で、「機体合計」では、1,303億円減の6,771億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2019年度は、「エンジン本体」は海外向けエンジン修理の減等により412億円減の398億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増等により217億円増の5,875億円で、「エンジン合計」では、194億円減の6,274億円となった。

◇2020年度は、「エンジン本体」は防衛向

けエンジンの増等により259億円増の657億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の減等により3,109億円減の2,766億円で、「エンジン合計」では、2,850億円減の3,424億円の見通しである。

③装備品

◇2019年度は、民間機向け内装品の減等により246億円減の1,316億円となった。

◇2020年度は、防衛航空機向け搭載機器の増等により201億円増の1,517億円の見通しである。

<調査対象企業：26社>

IHI、KYB、川崎重工業、小糸製作所、島津製作所、ジャムコ、昭和飛行機工業、シンフォニアテクノロジー、新明和工業、住友精密工業、多摩川精機、東京計器、東京航空計器、東芝インフラシステムズ、ナブテスコ、日本航空電子工業、日本電気、日本飛行機、SUBARU、富士通、三菱重工業、三菱電機、三菱プレジジョン、横河電機、横河電子機器、横浜ゴム

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 業務部長 杉原 康二〕